

事業計画書及び収支見積書（様式1）

年 月 日作成

1-1. 事業の全体計画（業務を行う時間、従業員数、休業日、扱う車種（乗用車、大型車）を含む。）

業務時間	:	~	:	従業員数	人
				休業日	

1-2. 許可取得後の使用済自動車（解体自動車等）の年間引取計画

引取予定台数	台
主な引取先	

1-3. 解体（破碎等）能力

1日当処理能力	稼働予定日数	年間処理能力
台/日	日	台

1-4. 保管の状況

（解体業）

使用済自動車		解体自動車	
保管量の上限	(台)	保管量の上限	(台)
現在保管量	(台)	現在保管量	(台)

事業場以外の場所で保管している場合は、その台数を内数で（ ）に記入すること

（破碎業）

解体自動車		A S R	
保管量の上限	台	保管量の上限	m ³
現在保管量	台	現在保管量	m ³

1-5. 年間収支見積書

項目		前年度 (決算月 月)		今年度の見込み (決算月 月)	
		年度 (千円)	(1台当) (円)	年度 (千円)	(1台当) (円)
売上高 (全体)	ア (総売上収入)				
売上原価	イ (使用済自動車等購入費)				
その他の経費	ウ				
	うち廃棄物処理委託費 エ				
営業収益	オ=ア-イ-ウ				
営業外損益	カ (主に支払利息)				
経常利益	キ=オ+カ				
使用済自動車等年間引取台数					
使用済自動車等年間処理台数					

(参考)

	前年度末	現在
負債総額 (年度末残高) (千円)		

- (注) 1 「1台当」額は、売上原価は引取台数で、その他は処理台数で割ること。
 2 使用済自動車等購入費は購入費をプラス、引取・処分料金を徴収した分はマイナスで計上すること。
 3 支払利息のみの場合又は支払利息が受取利息より多い場合はマイナスで計上すること。

事業計画書及び収支見積書（様式2）

年 月 日作成

2-1. 不適正に大量に保管している使用済自動車（解体自動車）等の処理計画

保管量上限を超過している廃棄物の種類（すべて記載）（注）	
保管量上限を超過している廃棄物の搬出の方法	
搬出先の所在地及び名称	
搬出先での処理の方法	
年間搬出予定量（種類別）	
過去1年間の年間搬出実績（種類別）	
改善完了予定年月日	年 月 日
改善にかかる予定費用	
改善にかかる資金の調達先	

（注）使用済自動車、解体自動車（破砕業にあってはASR）以外の廃棄物がある場合には、その保管量も記入すること。

2-2. 詳細収支見積書（許可取得後1年間）

I 総括表

	単位	
自動車解体業による利益（Ⅱ表ア）	千円	
保管解体済自動車に係る処分費用（Ⅱ表イ）	千円	
差引	千円	
差引がマイナスの場合の対応		
（上記が借入金の場合の借入先）		

II 収益の計算表

	単位	
有用部品売却益（1台当平均） A	円	
使用済自動車等引取料金収入（1台当平均） B	円	
解体自動車等処分費（1台当平均） C	円	
解体作業工賃及び管理費（1台当平均） C'	円	
新規引取使用済自動車年間処理台数 D	台	
新規引取使用済自動車当利益 $E = (A+B-C-C') * D$	千円	
保管使用済自動車年間処理台数 F	台	
保管使用済自動車等利益 $G = (A-C-C') * F$	千円	
自動車解体業による利益 ア $H = E + G$	千円	
保管解体済自動車年間処理台数 I	台	
保管解体済自動車に係る処分費用 イ $J = C * I$	千円	

III 単価（1台当平均）の算出方法

有用部品売却益→ⅡのAへ	円	
使用済自動車等引取料金→ⅡのBへ	円	
解体自動車処分費→ⅡのCへ	円	
解体作業工賃及び管理費（1台当平均）→ⅡのC'へ	円	

- (注) 1 処分料を徴収して引き取っている場合を想定。なお購入している場合は、マイナスで計上する。
 2 処分費を支払って引渡している場合を想定。なお売却している場合は、マイナスで計上する。
 3 過去直近3年間の決算書（個人の場合は所得税納税申告書及び納税証明書）を添付する。

2-2. 詳細収支見積書 (つづき)

詳細収支見積書附表

項目		直近期の実績 (千円)	単価		主な引取先、引渡先又は売却先	備考 ※主な内訳は下記のとおり
				単位		
収入	有用物売却収入			円/台		
	1 エンジン			円/台		
	2 バンパー			円/台		
	3			円/台		
	4			円/台		
	5			円/台		
	その他					
	エアバック類回収料金					
	解体自動車売却収入 (注)			円/台		
使用済自動車処分手数料 (注)			円/台			
支出	使用済自動車引取費用 (注)					
	廃棄物処分委託手数料 (計)					
	鉛蓄電池					
	タイヤ					
	廃油					
	廃液					
	蛍光管					
	解体自動車 (廃車ガラ) (注)					
	廃部品					
	(種類)					
	(種類)					
その他の廃棄物						

(注) 1 決算書等の内容とその実際の収入・支出の項目の対比について記入すること。

2 直近年について作成すること。

3 使用済自動車を引取業者等から処分委託手数料等を徴収して引き取っている場合は記入欄に、使用済自動車を買取業者から買取っている場合は支出欄に記載すること。

4 解体自動車を破砕業者に売却しているときは収入欄に、破砕業者に処分料を支払って引き取られている場合は支出欄に記載すること。

2-3. 資産に関する調書

資産の種別	内容	数量	価格、金額 (千円)
現金預金			
有価証券			
未収入金			
売掛金			
受取手形			
土地			
建物			
備品			
車両			
その他			
資産計			
負債の種別	内容	数量	価格、金額 (千円)
長期借入金			
短期借入金			
未払金			
預り金			
前受金			
買掛金			
支払手形			
その他			
負債計			

(注) 前年度の決算書 (貸借対照表を含む) を添付する場合は、作成不要。